

コロナ禍がさらに女性事業者を打撃 中小零細の資金調達を支えるファンドへ出資



過去に融資を受け、小売店を開始したミャンマーの女性。収益が安定したおかげで、二人の娘を学校に通わせることができるようになった。

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大は途上国にも大きな影響を与えている。とくに貧困層を対象に小規模金融サービスを提供するマイクロファイナンス機関の資金調達や、事業基盤が脆弱な中小零細事業者の資金繰りは喫緊の課題だ。

そんな状況のなか、スイスの資産運用会社・ブルーオーチャードが「COVID-19新興国中小零細企業支援ファンド」（以下、「COVID-19ファンド」）を設立した。途上国の女性は男性と比べてインフォーマルセクター*に従事の割合が高く、雇用も不安定。収入は低く、金融機関へのアクセスも少ない。コロナ禍による経済の低迷によって、さらに困難な状況に追い込まれている中小零細の女性事業者に対する緊急的な支援の重要性を痛感したJICAは、「COVID-19ファンド」に35億円を上限とした出資を決定。11月5日に、JICAを含む6者の投資家が出資契約に調印した。

ブルーオーチャードは途上国における女性の金融アクセス改善を積極的に支援しており、現在運営するファンドも最終顧客の80パーセント以上が女性。ブルーオーチャードが管理する本ファンドに出資することで、女性の中小零細事業者に支援を届けるのがねらいだ。

*法的な手続きを経ていない非公式な企業や活動。

ニュース深掘り! 民間の投資が続くことを期待しています

JICAはこれまで、ブルーオーチャードが運用する「日本ASEAN女性エンパワーメントファンド」を通じて、アジアのマイクロファイナンス機関や中小零細業者に60億円を出資してきました。

その既存の顧客層に向けた追加支援という意味でも、「COVID-19ファンド」への出資は重要です。JICAの出資金はアジア地域のマイクロファイナンス機関の融資に充てられ、中小零細事業者のビジネス継続と開発効果の発現のために活用されます。「日本ASEAN女性エンパワーメントファンド」の定例会議の際にブルーオーチャードから「COVID-19ファンド」への出資を打診され、新たな案件として成立しました。本ファンドはスピードが肝心——女性を含む中小零細事業者に早く支援を届けたいと考えています。

ただ、「COVID-19ファンド」に民間投資家に参加する可能性は不透明です。世界経済の先行きが予測できないので躊躇する可能性もあります。だからこそ、開発金融機関の出資で先駆けることに意義があるのです。本ファンドは350億円程度の資金調達を目指しています。JICAの投資が「呼び水」となり、2回目、3回目の資金募集で民間投資が促されることを期待しています。

民間連携事業部
舟越和子さん
ふなこし・かずこ

2006年入構。14年から16年まで駐在したネパールで大地震（15年）が発生。復興支援を通じて金融へのアクセスやマイクロファイナンスの重要性を痛感したことが「COVID-19ファンド」に取り組む動機になった。



JICA HEADLINE NEWS

11月 9日 | ▶ **ニカラグア ハリケーン被害に対する国際緊急援助**

北東部における被害に対して、テントなど物資の引き渡しを実施。同国政府関係者から、日本からの長きにわたる支援の結果、災害対応力も向上しつつあるとの謝意も表明された。

11月 5日 | ▶ **モンゴル 新型コロナウイルス感染症危機対応のための契約に調印**

政府間の貸し付けである円借款による財政支援で、公衆衛生対策や経済対策、社会保障拡充等の緊急対応に協力。

11月 2日 | ▶ **JICAの大エジプト博物館合同保存修復プロジェクトチームが読売国際協力賞を受賞**

プロジェクトの長期活動を通じてエジプト側との信頼関係を構築し、同国の文化遺産の保護に貢献したことが評価された。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>